

## 第三者評価講評

平成29年度

《事業所名：夢風船》

No. 特に良いと思う点	
1	タイトル 「地域のセーフティネットとしての機能を！」という当初の理念が息づく支援が行なわれており、地域に根差した活動が行なわれています
	内容 当事業所は平成26年11月に地域のセーフティネットとして機能させるためにという理念、目的をもって開設した事業であり、利用希望者については原則断らない、受け入れをしていくといった基本方針が保たれています。毎日の入浴、排泄の介助、問題行動への対応など丁寧な支援を行うと共に、地域において利用できる制度が見当たらない場合には、余命宣告を受けた終末期の方の最後を受け入れ、看取りまで行なうといった姿勢は高く評価されるものです。
2	タイトル 環境面の強みは毎日の入浴を実現し、利用者の生活の充実に寄与しています
	内容 事業所には、一度に数名が入ることのできる大きな浴室があり、利用者は毎日入浴をしています。これは、家庭で安全に入浴ができない環境であったり、グループホームで暮らす場合は帰宅してからゆっくりと過ごす時間が持つことを考えているためです。当然、事業所には水道などの負担がかかるところですが、近隣の協力により井戸水の活用ができるこの環境面の強みを生かして、利用者の生活の充実に寄与しています。一部介助が必要な利用者には同性介助で対応し、体調面で配慮が必要なケースでは医療職が対応しています。
3	タイトル 地域の期待に応える姿勢は地域の支持につながり、利用者の生活の質向上に成果として現れています
	内容 事業所は地域とのつながりから、稀に見る恵まれた環境の物件を活用して開設に至った経緯があります。過去の法人設立の際も、当事者の立場に立って環境づくりに取り組んでおり、地域の期待に応える姿勢が、地域に支持されていることがうかがえます。事業所での毎日の入浴の実現や、定期的な資源回収先として商店街が協力しているほか、様々な場面で利用者の生活の質向上につながる成果として現れています。
No. さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル 利用者や家族からの要望、希望、意見等に対する基本的対応やそれに対するレスポンスについても注意が払われるようになります
	内容 利用者、家族からの聞き取りやアンケート結果の総合的な満足度は、「大変満足」と「満足」で9割を超える高い評価を受けていますが、家族からの声の中には「施設での本人の様子を教えて欲しい」とか、「伝えて欲しいとお願いしたことが伝わっていない」とか「本人を愛称で呼ぶのは控えて欲しい」といった要望も伝えられていています。利用者のプライバシーを保護するといった姿勢で臨まれていることは理解できますが、家族や本人からの要望や意見等についての事業所の基本的対応やそれに対するレスポンスについて注意が払われることを希望します。
2	タイトル 安定した事業の継続に対して職員の人材育成含めて組織的なシステム化が求められます
	内容 業務管理マニュアルのほか、てんかん発作時や支援マニュアルを作成しています。このほか緊急時マニュアルなども備えられ、事業所の標準化の取り組みは徐々に進んでいるようです。利用者個々のマニュアルも大切ですが、事業所内での人材育成に関する手法は、口伝えではなく施設全体で最低限の標準化とすべくマニュアルや手順書が求められます。施設職員も永続的ではないことも鑑み、管理者や中間管理職の業務に対する最低限の標準化として、特に経営層職員の異動などで施設の考え方や手法が変わらない内容を整理し、整備することが必要に思われます。
3	タイトル 職員スキルの差の課題解決に向けて、実践のなかにしきみが生かされる取り組みに期待します
	内容 事業所では、職員のスキルの差を課題として挙げられています。職員の採用から育成については、面接後に現場の実習を2日間設けて適性を確認し、入職後には職員オリエンテーション資料を用いて、法人理念、障がいに対する考え方、マナー、家族への配慮など、働くうえで重要な基本事項を伝えています。業務標準については、2年前より業務の基本を定めるマニュアルの整備も行っています。これらの実践を定期的に評価する職員業務評価シートのしきみもあります。これから課題解決にむけて、実践のなかに、しきみが生かされる取り組みが期待されます。